

寺
ごよみ

四 月

- 一日 お講 下村
- 二日 黒部仏教団「花祭り大会」
打合わせ会 この日の会議で、
委員長には善巧寺住職、副委員
長には願蓮寺さんが選ばれました。
- 五日 日曜学校開校式
- 六日 交通安全運動 夢を語る
会と雪ん子劇団員が、新入生と
ドライバーに「命を大切に」の
PRを行います。
- 一六日 お講 栗虫
- 一八日 ようこそ日帰りバス旅行
富山県内のお寺や、明教院ゆか
りの地などを訪ねます。昨年は
たけの子料理、今年は何のこち
そうやら：費用は五千元。申込
みはお早めに。定員四十人でし
めきります。
- 二九日 仏教団花祭り大会 例年
の寺の名物、十二万個のチュウ
リップの花飾り、お見逃しなき
ようにつに...

寺 報

善 巧

発 行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
☎宇奈月(07656)(5)-0055

四月二十九日午前十一時より
黒部区域仏教団主催
花祭り大会
会場 浦山・善巧寺
☆お稚児さん募集中



遅ればせ乍ら、豪雪御見舞申し
上げます。被害は無かったでし
うか。連日の除雪作業で御つかれ
のことと思います。

此の原稿を書いている現在一三
月十一日でも、私の部屋の窓際
まで雪の山で、何時庭の土が見ら
れるかと思う程です。

今年は、寺も大掛かりの除雪を
専門の方々に御願いして、お蔭で
大した被害もなく、又、
御詣りの方々に、御迷惑
をかけることも余りなく
済ませることが出来ま
した。何分にも広い境内
と、多くの建築物のため
次々と押し寄せる豪雪に
対抗するのは大変で、鉄
筋の部分、鉄骨の部分も
万が一に備えて、除雪、整
備致しました。

雪が消えてしまわぬと、
庭木の被害状況など未だ
不明です。し、本堂の瓦
の破損工合も、これから
逐一、調査致して、前後
策を講じたいと思います。

何れにせよ春は目前で、雪の下
では、もう、春の営みが始まって
居ります。

皆様の善巧寺も、春を迎えて、
過去への反省、未来への展望と、
寺内一同、張り切って居ります。
私事で恐縮ですが、孫の一人は、
四月から中学一年生になるし、も
う一人は、小学校一年生になりま

春を迎える心

す。

新しい芽が育っているのは、天
地自然だけではありません。去年
は、京都の御本山でも新門主が誕
生して、御一緒に、御法要に詣ら
せて頂きました。皆様の御家庭で
も、新しい生命の誕生が見られる
ことと思います。冬が永かっただ
けに、雪が深かっただけに、春を
迎える心は、切実なものがありま
す。暗い冬から、明るい春

へ。自然の恵みは、太平洋
岸の地方と等しく、日本海
岸の地方にも、春の陽光を
もたらせてくれます。

「なにごとく、くらから
ずこそ候はんずれ」
恵信尼は、やがてまいるご
くらくを信じて、このよう
に書いて居られますが、春
を迎えて明るい展望を、お
互いに、心の中に、育て上
げようではありませんか。

差し当り、善巧寺では、
四月の終わりに、恒例の花
祭り、初まいるの行事が開
かれます。今は雪の下の特
ユトリップも、時節到来、善巧寺
の境内一ぱいに、花のカーペット
を広げる日を待っている筈です。

新しい心で、御寺に来て下さる
日を、切に期待します。

住職 雪山 俊之

明教院僧鎔は何を説いたか

空
華
と



明教院
僧鎔 伝

空華学轍の思想

(一)

勸学寮頭 桐溪順忍師

絶対他力とは「自力の無限否定」であり、反面からいえば、私からは成仏する可能性を無限に否定する「絶対悪」の思想ともなる。

この立場にたつかぎり、浄土往生の因である信心は他力廻向のものであることはもちろん、大行も名号であり、成仏の可能性としての本有仏性も否定し、宿善他力説など、往生成仏に関するあらゆる善は如来廻向のものであるといわざるを得なくなり、それだけではなく、信後の生活においても、私たちの行う善的な行為



明教院の墓前に立つ
桐溪和上

「救済の論理」

では救済教において、究竟的には、救う如来は救済力において絶対性をもち、救われる衆生は絶対悪的な性格をもつに至る必然性はどこにあるのか、その論理の基礎的なもの、またその展開の経路な

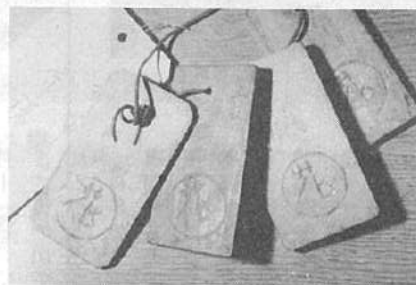
どについて考えてみたい。

私はその基礎的なものは、救われる者の慶びの心情であり、その心情の必然な論理性によるものであり、それを「救済の論理」といいたいのである。もちろん「救済の論理」といえば、救済者である如来からの論理、救いの論理が主体となるべきものであろうが、自分はいま、被救者の立場、救われる者の心情から生ずる必然的な面を取りあげて「救済の論理」と名づけたのである。それによって、浄土真宗の如来善の絶対性と、衆生悪の絶対性の生ずる必然の論理

慶しき哉

悲しき哉

を究明したのである。救われる者の慶びの心情の構造ともいべきものは、宗祖の説かれた「教行信証」の三哉がよくその内容を示しているようである。三哉とは「誠なる哉」「慶しき哉」「悲しき哉」の三である。「誠なる哉」は総序の文に「カ所あるだけであるが「慶しき哉」は総序の文と後序の文の二カ所にあり、「悲しき哉」も信巻の終りと、化巻の三願転入の文の前との二カ所にある。しかも、この三哉は第二の「慶しき哉」の心情が中心になって展開されるものようである。



空華学轍のシンボル 花に丸の焼判

すなわち、救われる者の慶びはそれは誠のものであり、真実のものでなければ慶べないのである。阿弥陀如来の願力、名号は真実であり、誠なるものであるから慶べるのである。だから、総序の文には「誠なる哉、撰取不捨の真言、超世希有の正法、聞思して遅慮することなかれ」と説かれたのである。

このことを考えると「誠なる哉」とは「慶しき哉」の内容として考えられるのである。しかもその「慶しき哉」は、遇い難きものに遇い、聞き難いものを聞いたという心情

のとき、一層つよく感ぜられるものである。それが総序の文に「慶しき哉西番月支の聖典…遇い難くして今遇うことを得たり聞き難くして已に聞くことを得たり」と示されている。この遇い難きものに遇い、聞き難いものを聞き得たという慶びの心情は、外部的なものであつて、もしこれを自分の内面的なものでいえば「救われ難き私が、今救われる」ということになるのである。

自分の悪人という反省である。だから、自分が救われ難い存在、罪悪深重であるという意識が強ければつよいほど、救われる慶びが強くなるのである。この悪人の救われる心情をもっとも適切に示されたものが、善導大師の信心の具体的なものとして示された「二種深信」であるといつてよいのである。悲しき哉の心情は、二種深信の機に深信にあたるものとして味わうべきである。

寺
ごよみ

五
月

一日 お講 音沢

一〇日 愛鳥週間 この日から一週間を小鳥をかわいがる週間だといひます。けつこうなことですが、考え直してみませんか？この愛鳥週間にニワトリやスズメやウソやハトは含むのですかそれとも？。身勝手な私に気付かされることであります。

一六日 お講 音沢

二一日 宗祖降誕会 親鸞聖人のお誕生日です。承安三年（一一七三）のこの日、宗祖は京都の日野でお生まれになりました。この宗祖のご誕生あればこそ、私達は念仏のいわれを聞くことができるのですから、そのご恩をよろこびましょう。来年の四月二十九日はこの宗祖の誕生八百年の法要が寺でつとまるのです。

この「救われ難き私」とは、自分の悪人という反省である。だから、自分が救われ難い存在、罪悪深重であるという意識が強ければつよいほど、救われる慶びが強くなるのである。この悪人の救われる心情をもっとも適切に示されたものが、善導大師の信心の具体的なものとして示された「二種深信」であるといつてよいのである。悲しき哉の心情は、二種深信の機に深信にあたるものとして味わうべきである。

お見舞の糸

この度の豪雪で皆さまにはどんなに
難渋しておられやすことかと 衷心で同情
申し上げますと共に 宗門を挙げて お見舞
申し上げます

この時にあたり 親鸞聖人の御苦勞を今
こそ身を体して味わさせていただきますこ
とは 正にお念仏こそは 人生のあらゆる苦
難と行結りを打開して生き抜いてゆく道と
して み仏さまから恵まれたものであります
このお念仏が 私共の心の中に生き切つて下
つて 人間の心の無明のくらがり打破ら
れる時 さらごとたわごとやことあるこ
となき虚仮不实の世間にも 如来様から
恵まれたものとしての真実の光が輝き永
遠の生命に生き切る活々とした希望と力
が賦与されることであります

皆さまの苦勞を思えば 如何なる
お慰めの言葉をもつても足りません
が 幸いに恵まれたお念仏にお慰めの
道を見い出して 苦難の道を忍苦精
進していただきますことを切に念ひ上げま
すと共に 十分ご健康にご留意下さい
ますよう 念願致しまして お見舞の
ことばと致します

京都 西本願寺

豪雪地の皆様方へ

へ 偏見

「誤解と偏見を求
めて、果てしのねえ旅に
出るのだ」——と年中あちこち飛び
回っているのは、永六輔さん。わ
れわれの世界は、別に旅をしなく
ても、そこいら中に、この誤解と
偏見が満ちあふれていることは確
かなようであります。

ある女性とお見合いをした私の
友人。次の日にタメ息をつきなが
らこんなことをいうんです。

「あーあ、感じのいいコだと思
って喜んでいたらだけどなあ。ひ
よいと入った植物園でキレイな蘭
の花々を見ながら、どういったと
思う？ まあすごい！ 買ったた
高いんでしょねえ、だって。き
れいだなあ、とありのままに見ら
れないのかねえ」

何を見ても「いくら？」としか
いえないのも、どうやら片寄った
見方、偏見だといえそうです。

ところで、この偏見ですが、仏
典によれば五つの誤った見解の一
つだそうで、その五つとは「一」に
身見（オレが私とこだわる見
解）、二に偏見（極端に片寄った
見方）、三に邪見（よこしまな見

解）、四に見取見（自分の見方が
最高であるとする誤った見解）、
五に戒禁取見（かいこんしゅけん
＝外道を道とする見解）——であり
ます。

いずれも、私利私欲にこだわる
われら人間のものの見方であって
どうにもならない病気のようなも
のであります。それを病氣と自
覚していない人が、これまた多い
んですよねえ。

一口説法

と 時 いまやらねばならな
いことを「あとで」。き
ょうやることを「今日は日が悪い」
今週中にといわれたことを「また
来週」。そして入学が決まれば
卒業のことを考え、入社すれば昇
進のことを考え、ふりかえってみ
ては「あのころはよかったなあ」
ひとつ大事なことを忘れてはい
ませんか？ 時間はむこうの方に
無限にあつたり、過ぎ去つたもの

だけが時間ではないのです。時は
いま、いまをおいては存在しない
んですよ。
なのに、わたしたちは、この
「いま」という時を大事にしな
い。働いている時などは特にそう
だ。「あーあ、自分の時間が欲し
いなあ」なんていつてる。冗談じ
やないよ。働いている時もあなた
の時間なんだ。それを忘れちゃ困
りますよ。そしてさらに大事なこ
とは、このひと時、今日の一日は
もうあなたにとって、わたしの生
涯にとつて、永久に返つてこない
ひと時であり、とり戻しのきかな
い今日の一日なんですよ。
そんな大事なこのひと時を、良
時吉日選びなんかで値打ちを上げ
たり下げたりされてはたまつたも
んじやない。「日々是好日」は、
他人が決めるものじゃないんで
す。神さまが決めるものでもない
んです。あなた自身が、このわた
しが努力して、今日一日をこのひ
と時を、精一杯生き切ることをい
っているんです。大安友引天中殺
……みんなクソ食らえだね。

ご存知！ 「野休み落語会」今
年は六月一日（月曜）の夜七時三
十分より
開演です。

野休み落語は六月一日より七時半

にゆきた
いワ」と

永六輔さんと入船亭扇橋師匠の
レギュラーに加えて、今年は何ん
なお方がお越しになるやら……

か。
昨年の秋の会同様おさそい合わ
せの上、あなたも、是非に……

六月一日
落語会
永六輔



会議途中で仏壇業者から金箔の工事内容を聞く理事たち

五十五年度決算報告
収入は五十五年度一般懇志が六〇九万六五〇〇円。これは昨年度

慶びの春

■宗祖誕生 800年
◇57年 4月29日

■宗 祖 700回忌
■明教院 200回忌
◇57年 11月3～5日

聞法の秋

あと一年！熱気帯びる春の理事会

3.20

春の三法
要理事は、三月二十日開かれ、あと一年にせ

から今春にかけて、報恩講廻りで五〇軒の門徒からいただいたもの。それに五十四年度の繰越金と雑収入を加えて、総額が九〇五万四四四六円。これは当初予算額八六〇万円を四万五万四四四六円上回った金額で、門徒の方の積極的な協力のたまものでもあります。

さて、このような志をどのように役立てたかというところ

まずは教化費。日曜学校、花まつり、特別法座、一泊聞法と年々盛大になる教化行事は、その盛況に正比例して当日の懇志や特定懇志もふえるようになり、中でも落語会、盆踊り、雪ん子劇団などは早くも別会計で教化費からの支出はゼロになるほど。こうした中で、寺の教化活動は、行動から充実へ——この一年は教材の拡充にも手が届き、一段とパワーアップされました。

総務費 いま、寺で何が行われているか、それが門徒の一人一人にとって、どのような関わり合いがあり、どんな意味があるのか——これまでこうしたことが門徒の方に正確に伝えられるにはかなりの時と労力を必要としました。

三法要特別会計55年度決算

〈収 入〉		
① 54年度繰越金	2,528,677	
② 55年度一般懇志	6,096,500	
③ 雑 収 入	429,269	
	9,054,446	
〈支 出〉		
I 教化伝道費	200,000	算 志
	111,100	子 懇 志
① 日 曜 学 校	25,500	
② 花 まつり	94,950	
③ 特 別 法 座	20,000	
④ 一 泊 聞 法	30,000	
⑤ 教 材 費	120,300	
⑥ 雑 費	20,000	
	310,750	
	残 350	(差引)
II 総 務 費 (予算)	600,000	
① 寺 務 報 費	210,000	
② 事 務 通 信 費	202,500	
③ 会 合 費	29,200	
④ 雑 費	89,673	
	531,373	
	残 68,627	(差引)
III 借 金 返 済 (予算)	2,200,000	
農協借入金返済	2,117,500	
	残 82,500	(差引)
IV 予 備 費 (予算)	5,600,000	
	143,346	増 収
① 建 設 事 業	3,140,000	
② 電 気 事 業	551,900	
	3,691,900	
	残 2,051,446	(差引)
〈以上 収支差額合計は〉		2,402,923

三法要特別会計56年度予算

〈収 入〉		
① 55年度繰越金	2,402,923	
② 56年度一般懇志	6,000,000	
③ 雑 収 入	397,077	
	合計 8,800,000	
〈支 出〉		
① 教 化 費	200,000	
② 総 務 費	600,000	
③ 法 要 費	7,000,000	
④ 予 算 備 費	1,000,000	
	合計 8,800,000	

慶びの春：聞法の秋

しかしいま、総務費のほとんどをつぎ込んで、あなたと寺を結ぶ強力なパイプを通しつつあります。それがこの寺報「善巧」であり事務通信費といわれるものであります。

建設事業の折に懇志を見越して農協からかなりの額の借金をしていましたが、今回でそれがなくなりホッとしたしました。

前年度と同じ。次に法要費として七〇〇万円をあげてあります。これは、春の法要（来年四月二十九日）秋の法要（来年十一月三、五日の予定）を合わせた予算です。華美に走らず、粗末にならず、慶びと聞法の意義深い法要にしたいものです。

ところで、最後に予備費が一〇〇万円。おそらくこれは建設事業その他の雑費に使われることになるでしょう。

となると、内陣の荘厳は、いったいどうなるのか。

内陣法名の特別懇志と、昨年度からスタートした金箔等の特別寄進との強力な推進以外に道はありません。左五頁の記事をご一読いただいて、ご協力のほどをお願いいたします。

建設事業 待たれていた本堂と新築部分の接続、火災報知、本堂内の改造などが五十五年度では完了。寺はいま、すばらしい機能を発揮しています。法要までには、手直し、化粧直してどの事業ですむだろうとの見通しです。

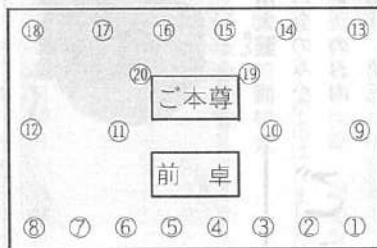
その他 ご存知かと思いますが、その中で、今年度の予算はそれを見越して別表の如く、収入の部は八八〇万円となっています。

そして支出の部。教化、総務は

金箔寄進満願!!

四月十日から着工

三月二十日に行われた三法要理事で、注目の金箔柱の張り替え



三月二十日 木曜日 机上の予定表、本日空欄。法務も無いし、私用もない。寺報「善巧」の原稿を、此の際執筆することとする。今日は、平々凡々の日常些事を克明に書いて見よう。午前九時、書斎に入る。室温九度。ストーブ点火。三月になってこれで二回、可成りの雪が降った。何時になったら、ストーブ撤去の運びになることか。目の前の雪の山は、一月末、屋上から雪おろした時から減っていない。庭前の椿やつつじは完全に雪の下で、どうなっていることやら。羅漢樹の雪吊の支柱が折れたが、枝折れは無い様だ。此処一カ月、疲れ目がひどく、

読書に没頭しにくい。先日、富山の「眼科医のアドバイス」で、時々温湿布している。雪の反射も目に悪いのだろう。前掛けと称する黒レンズを、眼鏡に掛けて見る。何となく疲れを感じないようだが、鏡にうつして見る自分の顔が、ヤクザに見えて感じ悪い。

室温十八度返上昇。部屋掃除を始める。応接間兼用のわが書斎は、十二畳の広さ。電気掃除機は私が好みならず。昔年らの帚と叩きが我が用具。運動不足勝ちの私には、十二畳の掃きそうじが丁度適当らしい。それでも、重い応接セツトの

住職日記

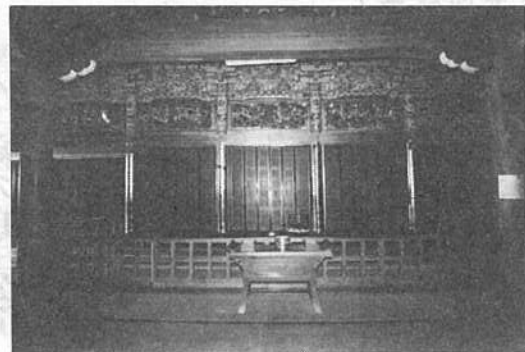


ソファやチェアの移動は、若干の力仕事なり。叩きをかけていて、思わぬ新発見。本箱と天井の境界の板に穴が開いている。此の間から天井裏で夜になると変な音がしていたが、間違いなく鼠の仕業だ。今のうちに対策を講じないと被害拡大の恐れあり。庭の積雪の上に、四・五羽の雀が来ている。中に名の知れぬ鳥が一羽まじっている。子供達がギイギイ鳥と名付けている鳥らしい。何時の間にか、昼食の時間になる。朝はパン一切れ、昼はうどん一杯と、此処一年、私の腹具合には、此のメ

二十本すべての特別寄進者が次の通り決まりました。(数字は柱番号)

- ① 橋場啓次(富山) ② 川瀬久義(東郷) ③ 菊地良造(浦山) ④ 藤沢正雄(板沢) ⑤ 開沢弘(板沢) ⑥ 野島重一(浦山) ⑦ 本波光雄(浦山) ⑧ 清水久一・橋爪伊佐夫(下立愛本) ⑨ 尾沢初雄(中新) 中山慶太郎(浦山) ⑩ 鬼原勝次(浦山新) ⑪ 同 ⑫ 同 ⑬ 開沢弘治(板沢) ⑭ 大野弘恵(中陣) 島田松伊(板屋) ⑮ 川内作一(栗虫) ⑯ 谷口小一郎(魚津) ⑰ 根塚卯一(生地) ⑱ 佐々木繁作・佐々木助一・佐々木与作、野村五郎(音沢) ⑳ 浦山・某氏、㉑ 川瀬達也(東郷) ㉒ 愛本新門徒中

巻障子修復にご寄進を!



また、このほか内陣の前卓は浦山の門徒数人でお声もあり、推進委、理事会では、これにつづいて善巧寺門徒の底力を、この一年間で十二分に発揮しよう!とさらに前向きな計画案をまとめました。それによると、柱の次は本堂内陣正面の巻障子の修復を広く金門徒衆に呼びかけることになりました。巻障子は細長い障子が全部で四十二枚あり、うち十八枚が一枚につき五万五千円、残り二四枚が一枚につき五万円です。一枚でけっこう。一人でも多くの門徒衆のご寄進をお待ちしています。

寺

六月

一日 お講 東郷・上野 この日は、若院の夷父、行信教校長の利井興弘師が来院、午後からは師の特別法話を予定しています。おまいりパスも運行。◎野休み落語会 同じ一日の夜は、ご存知、永六輔さんの落語会。開場七時。開演七時三十分。お代は聞いてのおたのしみ代という事で、宇奈月夢を語る会の主催です。一六日 お講 音沢

仏教団の花祭り大会

4月29日

今年は善巧寺で

お稚児さんは二年連続

黒部区域仏教団の五十六年度の花祭り大会は、四月二十九日に浦山の善巧寺で開催されることになりました。

このため、寺の花まつりは今年
は仏教団の花まつりとして行われ
ることになり、当番地区の宇奈月
町内のお寺あけて、四月早々から
準備にとりかかります。

これは三月十八日に開かれた仏教団の理事会で意向を打診されたもので、善巧寺としては毎年四月二十九日に催している「花の初参り」の日になら—との条件でお受けしたものです。

行事内容については後日、仏教団で決まり次第、案内、広告があると思われませんが、善巧寺としては来年の同じ日に「慶びの春・宗祖誕生八百年」の大法要を勤修することを決めており、今回の花まつりは、そのお待ちうけ法要のもりで全面的に協力し、チューリップの花飾りも前回同様十二万個



☆お内仏用大鑿きん浦

山のお経の会のみな
さん。集会所のお内

仏で毎月第一、第三

土曜日におつとめの練習会をしています。これまでは、会のあるたびに本堂の内陣から借用していたのですが、お経の会のみなさんのおさい銭が二年間積みも積もつて、極上の大鑿となりました。お

ご寄進

正信偈の練習にも一段と身が入るようであります。

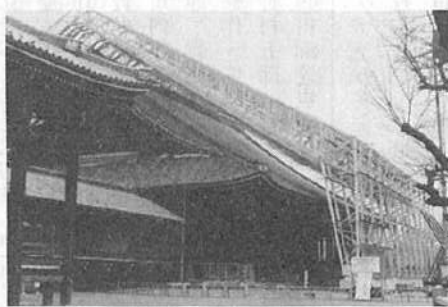
☆鑿ぶとん 下立の此川ひなさん
上のお内仏用大鑿のおふとんを自
分でつくって届けて下さいました。
和裁がお上手で、この他にも、落

語の会の永六輔さん達に贈るすてきなつつみも仕上げて下さいました。

☆灰ざら　魚津の谷口小一郎さん
この方は、お寺で足りないものを見つけるのがとても上手であります。『灰ざらが少ないみたいなので』とアルミ製のを十個。いつもどうもすみません。

善巧寺の
常例行事

お 婦 壯 雪 日 お	ん 子 劇 團	曜 学 校 講	毎 月 一 日・十六日
お 經 の 会	人 年 会	毎 月 第 四 日 曜 日	毎 月 第 二 土 曜 日
毎 月 第 一 ・ 第 三 土 曜 日	毎 月 第 一 月 曜 日	毎 週 月 曜 四 時	



本山はいま……

また、稚児行列も今回、来年と二年連続で行われますので、一回といわず、二回ともふるってお申し込み下さい。

ご本山はいま昭和の大修復の真っ最中。阿弥陀堂をスッポリと覆う鉄骨のやぐらが組まれ、いよいよ大屋根のふき替え工事のはじまりです。この工事のため、本堂の阿弥陀様はしばらく、お隣りの御影堂にお移りになっておられます。



太子会は楽し

三月十一日、恒例の太子会が寺
でつとめられ、総代さん、建設関
係の門徒さんら十二人が参集。お
つとめのあとにはなごやかに、会費
制でとおきの手料理と美酒を
くみかわしました。

雪ん子初の自主公演

ことばの教室「雪子劇団」が初の自主公演を三月二十八日、宇奈月中央公民館で行いました。小学校を卒業した劇団員のお別れ公演ということで、みんな熱演。町内のおおちゃん、お母さん達も心打たれたようでした。



わが心のカースト制度―あなたもわたしもきれいごとではすまされないおそろしい心を持っているんじゃないですか。いや、こんな私達だからこそ、阿弥陀様がいんでしょね。

インド仏跡参拝の旅で思ったこととー。

お釈迦様の時代のインドには極端に閉鎖的なカーストと呼ばれる四つの身分制度がありました。バラモン（出家僧侶）、クシャトリヤ（王族・武士）、バイシヤ（平民）、シユドラ（奴隸）；それが、現在のインドには、なんと、二三七八の階級があるということを知らさせて、ビックリギョウテンしたことであります。

なんたること！ 人類は皆兄弟ではなかつたのか？ そう思うと同時に、ドキリとさせられました。ことは、インドを指さしたその指を曲げて、わが心を見つめ直してみると、二三七八ぐらいじやすまされない八万四〇〇〇の身分、階級、差別の意識が、この私の心の奥底にひそんでいるではありませんか。

わが心のカースト制度―あなたもわたしもきれいごとではすまされないおそろしい心を持っているんじゃないですか。いや、こんな私達だからこそ、阿弥陀様がいんでしょね。